

# 令和3年度 作物栽培管理情報第9号

令和4年1月発行  
大分県中部振興局 集落営農・農地活用班

## 1. 令和4年産麦 3. 生育期の管理作業（後編）

- ・令和4年産麦の生育は、令和3年12月下旬から令和4年1月の低温により一部地域で緩慢となっていますが、全体としては比較的順調に推移しています。
- ・天候に応じた作業を行うとともに、分げつ肥や穂肥を適期に適量施用し収量・品質の向上を図りましょう。

### 1) 低温害対策 ～踏圧・土入れにより防止できる障害です！～

#### (1) 倒圧・土入れの適切な実施

- ①踏圧の 目的 : 茎数増加、耐寒(干)性向上、倒伏・凍霜害防止  
時期・回数 : 茎立期までに2回、生育过剩の圃場は1～2回追加実施
- ②土入れの目的 : 排水性・除草効果向上、霜からの幼穂保護、無効分げつ抑制、倒伏防止  
時期・回数 : 麦4葉期頃～茎立期までに2回程度、生育过剩の圃場は麦の生育状況に注意し追加実施

#### (2) 踏圧と土入れの優先順位

- ①出芽が早く、生育の進んだ圃場 踏圧 > 土入れ
- ②出芽が遅く、生育の進んでいない圃場 土入れ > 踏圧

#### ポイント

- ・低温害は出穂前後に初めて明らかとなります。出芽した時期と生育状況に応じ、気温の寒暖に合わせた適切な作業を行い思わぬ収量低下を防ぎましょう。

2月以降は降雨に遭う機会が多くなり、気温も徐々に上がります。  
この時期の湿害や雑草の多発は、収量・品質の低下につながります。

前号掲載の栽培管理

- ①排水溝の整備による湿害防止
- ②圃場内に残る雑草防除（基本は除草剤、必要に応じ抜取り）を、引き続き適切に行ってください。

### 2) 穂肥の施用 ～収量⇔生育量確保に不可欠です！～

(1) 成分量（裸麦・普通小麦は3kg/10a、醤油用小麦のみ5kg/10a）

成分量 (kg/10a)	基肥	分げつ肥	穂肥	(実肥)	計
窒素 (N)	5	2	3 (5)	(6)	10 (16)
リン酸 (P <sub>2</sub> O <sub>5</sub> )	8	0	0	(0)	8
カリ (K <sub>2</sub> O)	5	1	2	(0)	8

(2) 施肥量 ①裸麦・普通小麦 20kg/10a  
②醤油用小麦 30kg/10a

※肥料はどちらも化成肥料16-0-16を施用

(3) 施用時期 裸麦は2月下旬～3月上旬、小麦は3月下旬まで

※葉色が薄くなっている圃場は速やかに施用しましょう。

#### ポイント

- ・収量を定める穂数を確保する上で重要な追肥です。適期に適量施用し本年産の収量向上を図りましょう。